

しらかわ介護福祉専門学校 学校自己評価 (評価日 令和5年3月9日)

評価の視点 ; 5 = 良い 4 = やや良い 3 = 普通 2 = やや不十分 1 = 不十分

1 教育理念・目標

評価項目		評価		
		R4	R3	
(1)	学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。	①教員全員で教育課程を検討する場を設けている。	4	4
		②理念・目的・目標と一貫性の内容となっている	4	4
		③社会情勢にあわせた内容を含んでいる。	4	4
		④教育課程評価を行い結果を次年度に反映させている。	4	4
課題と解決策	教育理念、教育目標を学校パンフレットやホームページに掲載するとともに、教育課程評価会議やシラバス作成においても一貫性に配慮してきた。今後も、さまざまな情報収集や外部講師の活用等により、介護の現状や制度改正等に適正に対応し社会情勢の変化に応じた内容となるよう取り組んでいく。			

2 学校運営

評価項目		R4	R3	
(1)	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。	①学校評価を教職員に周知している。	5	5
		②学校評価をもとに改善計画を策定している。	5	5
		③中間評価との関連で改善計画を策定している。	5	4
課題と解決策	学校評価は教職員全員で取り組んでおり、評価結果を共有してするとともに改善計画を作成し中間評価を行った。中間評価は、改善計画の進捗状態を確認するために重要であり、継続的に行う必要がある。			

3 教育活動

評価項目		R4	R3	
(1)	授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。	①内容が具体的である。	4	4
		②シラバスに示された内容を実施している。	4	4
		③前年度の評価結果（授業アンケート結果など）を参考に各担当で授業（講義・演習・施設実習）案を検討している。	4	4
		課題と解決策	学生による授業評価結果等を参考に各担当が授業計画を作成するとともに非常勤講師の担当する関係授業との調整を図り、分かりやすい授業の実施に努めた。シラバスには教科ごとの到達目標を表記して授業目的を明確にした。学生が授業に積極的に参加できるよう具体的な内容の提示に努める必要がある。	
(2)	効果的授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	①時間割作成時に授業担当教員と調整している。	5	4
		②時間割は学生の状況に合わせて作成している。	5	4
		③学習の順序性を考慮した時間割となっている。	4	4
		④学生に時間割りを発表している。	5	5
課題と解決策	専任教員による教科会議を定期的に開催して、学生の状況や学習の順序性を考慮するとともに、非常勤講師の時間割との調整を図り、効果的な授業運営に努めた。			
(3)	学生に単位認定のための評価基準と方法を提示しており、評価に公平性・妥当性が保たれているか。	①評価基準を書面で提示している。	5	5
		②評価方法及び評価結果を学生に説明している。	5	5
		③演習や校内実習、施設実習の評価を複数で行うように努力している。	5	5
		④演習、校内実習、施設実習について公平・妥当な評価を目指して基準の見直しを毎年行っている。	4	4
課題と解決策	評価基準を書面で提示し、演習等は複数指導者で評価し公平性を保つとともに、適宜基準の見直しに取り組んでいる。			

(4)	学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。	①教員は、初回授業で到達目標、評価方法などを学生に説明している。	4	5
		②教員は未修得の科目の分析している。	4	4
		③教員は学生が未修得とならない様に自己分析するよう指導し、対応策を検討している。	3	4
		④成績不良者を対象として定期的な学習会等を実施している。	4	4
課題と解決策	未修得科目がないよう単位取得に関する学生への説明と状況把握に努めて個別指導を実施した。成績不良者には必要に応じて補講などの学習支援を行っている。			
(5)	学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し授業の改善に努めているか。	①専任教員は、全員が学生による授業評価を実施している。	5	5
		②専任教員は、全員が自己評価を実施している。	5	5
		③評価結果について教員間で共有し、次年度に向けて改善計画を明文化している。	4	4
課題と解決策	専任教員は全員が学生による授業評価及び自己評価を実施するとともに、非常勤講師についても学生による授業評価を行っている。特に介護関連教科については非常勤講師も交えての教科会議を開催し、評価結果の共有を図るとともに、次年度に向けて授業の改善に取り組んでいる。			
(6)	実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。	①実習先にカンファレンスルームや学生が記録や学習をする場所が整備されている。	4	4
		②学生が実習中は、毎日指導するスタッフがいる。	3	5
		③定期的な巡回指導により実習環境の整備に努めている。	4	5
課題と解決策	実習先の協力のもと、週1回の巡回指導を基本に教員が情報収集し実習環境の整備に努めたが、新型コロナウイルスの感染拡大時期と重なったこともあり、スタッフ不足や感染対策のために厳しい実習環境となった。今後も実習目標が達成できるよう実習先や学生との調整を図っていく必要がある。			
(7)	実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。	①定期的に指導者会を開催している。	4	5
		②実習指導者と教員との事前打ち合わせ、事後反省会を行っている。	4	4
		③学生の日々の学習方法や指導方法について教員と指導者と適宜意見交換している。	4	4
		④実習指導者、教員の役割を明文化したマニュアル等がある。	4	4
課題と解決策	指導者会議や実習報告会、週一回の教員による巡回指導等で指導者と意見交換を行い実習目標の共有を図った。今後も最終巡回指導等に実習全体を振り返り、課題改善に努める必要がある。			
(8)	実習時の利用者への倫理的配慮を励行しているか。	①利用者への倫理的配慮について指導を行い、学生は倫理に基づいた言動を心掛けている。	3	4
		②倫理的な事柄に関連した利用者からの苦情申し立てに対し適切に対応している。	4	4
課題と解決策	倫理的配慮や個人の尊厳についてはさまざまな授業の中で学習機会を設け繰り返し教育しているが、今後も演習や実習を通して身につけられるように継続的に指導していく必要がある。			
(9)	実習時のインシデント、アクシデント等を分析し、学生指導に生かしているか。	①インシデント等発生時のマニュアルを作成している。	4	4
		②実習前に安全教育を行っている。	4	4
		③インシデント等の情報が速やかに報告され、教員間、学生間で共有している。	4	4
		④学生が関係したインシデントについて、分析し再発防止に取り組んでいる。	4	4
		⑤教員・指導者・学生が協働して事故予防策を検討している。	4	4
課題と解決策	実習前だけでなく講義や校内演習等で事故防止指導を行っており、実習指導者とも意見交換し情報共有と予防対策に取り組んでいるが、今後も緊張感をもって実習に臨むとともに予防対策と迅速な報告の徹底に努める必要がある。			

(10)	教員が計画的に研究・調査活動を行えるよう体制を整えているか。	①教員が研究・調査活動を実施している。	2	1
		②教員が研究・調査活動に参加している。	3	1
		③教員が専門性を生かして地域及び施設などで知識・技術向上などの啓蒙活動をしている。	4	3
	課題と解決策	新型コロナウイルスの影響で、学会や研修会等の参加はオンラインによりるものが主であったが、教員がスキルアップするための機会の確保に努めた。研究・調査活動については市と協働で取り組む介護イメージアップ事業で、次年度に実施するアンケート調査の準備を進めている。また、地域の要請に応じて知識技術の啓蒙活動には取り組んでいる。		

4 学修成果

評価項目			R4	R3
(1)	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。	①各学年に対する指導方針が明確である。	4	4
		②国試の合格率が全国平均を上回っている。(令和3年度)	5	5
		③国試の合格率が100%である。(令和3年度)	2	5
		④学校独自の工夫をしている。	4	5
課題と解決策	各学年の理解度や授業進捗状況に合わせた国試対策を進め、2年次の国試対策は年間計画により取り組んでいる。また、模擬試験、学力評価試験の結果を踏まえ、個別にサポートする体制としている。全体の合格率80%で、留学生を除く合格率は92.3%(全国71.3%)			
(2)	卒業生の県内、市内就職率を高めるよう努力している。	①進路指導において、施設一覧等の情報提供を行っている。	5	4
		②就職者に占める県内就職率が80%以上である。	5	5
課題と解決策	全ての求人情報を公開している。今年度から新着情報を掲示板に公開し、最新情報の提供に努めた。5期生の就職率は100%ですべて県内である。			

5 学生支援

評価項目			R4	R3
(1)	質の高い卒業生を輩出するための努力を行っているか。	①個別面接によるきめ細かい指導を行っている。	4	4
		②必要に応じ学生とその保護者との三者面談を行っている。	5	5
課題と解決策	学生の自主性、主体性を尊重しながら、学習意欲や理解度を踏まえ丁寧な個別指導を実施するとともに三者面談などを実施している。今後も学生の個性の理解に努めタイムリーできめ細かな指導を継続していく必要がある。			
(2)	卒業生への支援を行っているか。	①卒業生にホームカミングディを実施している。	4	1
		②卒業生も図書室を利用することが可能である。	5	5
課題と解決策	昨年同様、新型コロナウイルスの影響で、ホームカミングディは実施できなかったが、メールや電話、来校による相談支援を行った。			
(3)	就職などの進路に関して学生に十分応じているか。	①就職に関して相談に応じるとともに、情報を提供している。	4	4
		②卒業生を学校に招き、先輩との交流会を実施する。	5	2
		③卒業生の来校時などに就職先の情報収集し、適宜、在校生に情報を提供している。	3	3
課題と解決策	ハローワークとの連携による就職支援講座の実施や個別的な就職支援を行った。本校独自に実施していた8月の就職説明会は感染者数の急増により残念ながら開催を見合わせとなったが、2月には卒業生を招いての交流会を実施し、介護福祉士の仕事に対する具体的なイメージが持てるよう支援した。			

6 教育環境

評価項目			R4	R3
(1)	教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか、学生の自主的学習の場所が確保されているか。	①教育目標の達成に必要で適切な教材が整っている。	4	4
		②パソコンは授業時一人1台使用できるよう整備している。	5	5
		③学生の自主的学習のために必要な、教材や施設・設備を利用できるようにしている。	5	5
	課題と解決策	教育目標達成に必要な教育機器、施設設備は備えており、パソコンについては計画的な換装に努めている。また、学生が自主学習しやすい体制を整えている。		
(2)	学生のための福利厚生設備は整っているか。	①学生が自由に使用できるホールがある。	5	5
		②クラブ・集団活動ができる場所がある。	4	3
		③学生が時間外でも使用できる場所がある。	5	4
		④長期休業日にも利用可能となっている。	5	5
	課題と解決策	学生ホールや教室等は時間外、長期休業中の利用も可能としている。		
(3)	図書室は利用しやすく学生に十分に活用されているか。	①図書室利用の為に情報提供などを掲示している。	4	3
		②蔵書・雑誌等は、定期的に整理又は破棄している。	3	3
		③蔵書が1000冊以上ある。	4	5
		④計画的に新刊書購入し、学生への最新の知識・情報の提供に努めている。	4	4
	課題と解決策	新刊書等の情報提供を行い、図書館の利用を促しているが、利用は少ない。学生アンケートを取るなどして図書室利用の活性化を図る必要がある。		
(4)	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品等が整い、十分にその機能を果たしているか。	①学生数に応じたスペースが確保されている。	5	4
		②介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針に定められている設備・備品が整っている。	5	5
		③備品・設備の点検を定期的に行っている。	4	4
		④学生が備品・設備を学習のために使うことができるためのシステムが確立している。	4	4
	課題と解決策	学生数に応じたスペースは十分確保され、備品・設備については定期点検を行っている。		

7 学校の周知、学生の募集

評価項目		R4	R3	
(1)	より多くの応募者を確保することに努めているか。	①学校説明会は参加者の利便性（曜日・時間）を考えて開催している。	5	4
		②各高等学校等に出向き学校案内を行っている。	5	5
		③学校関係者又は地域の方々に学校内見学を行い学校の特殊性を話し広報する。	4	4
		④入学者の出身高校などに学生生活の様子を報告している。	3	3
課題と解決策	春休み期間中のオープンキャンパス実施や進路ガイダンスへの積極的参加、学校訪問に関しては重点校の複数回訪問に取り組んだ。また、介護イメージアップ事業や高校の希望に応じて中高生の校内見学会を実施するとともに、学校訪問やガイダンスの機会を捉えて出身校に学生の様子を伝えるなど、学生確保に努めた。			
(2)	学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。	①前年度の評価を生かした広報計画を年度末に策定している。	3	4
		②ホームページ・パンフレット等は受験生が求める情報を掲載している。	4	4
		③ホームページは必要な情報を掲載している。	4	4
		④広報活動の結果、説明会参加者、受験生数の増加している。	4	3
課題と解決策	パンフレット、ホームページの随時更新や魅力あるチラシの作成、市町村広報誌への掲載等を行い、わずかだが受験生を増やすことができた。ホームページに学生の様子を積極的に掲載するとともに、中学校等と連携して本校の周知や介護福祉士に対する理解を深めるなど、多角的、継続的な広報活動が必要である。			

8 社会貢献・地域貢献

評価項目		R4	R3	
(1)	学校内で講演等を設け地域や施設等の方が参加できるように努めているか。	①課題に沿った講演等を企画している(内容・講師・日程・時間数など)。	5	3
		②教職員ほぼ100%参加。	5	2
		③地域・施設等への参加も呼び掛けている。	1	1
課題と解決策	教養講座として計画的に講演等の実施に取り組んでいるが、今後は地域・施設の方々が参加できる機会の確保に努めていきたい。			
(2)	地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。	①地域住民を対象にした公開講座を年に何回か実施している。	4	1
		②地域のボランティア活動への参加を促している。	2	2
		③学校行事に地域住民等が参加している。	3	1
		④学校として地域の団体等の行事に参加している。	3	1
課題と解決策	市と連携し公開講座を1回開催した。また、感染状況によっては変更することを前提に文化祭特別講演会には地域住民参加も可能とし、実施することができた。地域のボランティア等への積極的な参加は自粛を促すこととなった。			